

第5回通常総会資料

開催日時 平成30年 6月 2日(土) 13:30~

開催場所 厚生連高岡病院地域医療研修センター(Ⅰ)

富山県農村医学研究会

第5回通常総会次第

日時 平成30年 6月 2日 (土)

13:30～16:00

場所 富山県厚生連高岡病院

地域医療研修センター (I)

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人選出 (2名) 及び書記指名 (2名)
5. 議 事
 - 第1号議案 平成29年度事業報告書、財産目録、収支決算書報告承認について
 - 第2号議案 平成30年度事業計画案及び収支予算書案承認について

特別講演

「障がい者自立支援センターあぐり果愛の活動」
～障がい者、高齢者とともに農業を通しての地域福祉活動～

特定非営利活動法人 食と福祉と環境を考えるネットワーク
前理事長 牛島政信

平成29年度事業報告

I. 事業の概要

平成29年度の事業終了に当たり、事業の概況について報告致します。

本会では豊かな農業・農村を維持する農業者の健康づくりについて様々な調査研究を行ってまいりました。

特に、本会設立以来、全国に先駆けて農作業事故の実態調査を続け、農水省が実施する「農作業事故の対面調査」を主導的に推進してまいりました。また、高齢者が農作業に携わる事による健康保持増進効果に関する調査も引き続き実施してまいりました。

これらの研究成果は、平成29年10月に沖縄県宜野湾市で開催された第66回日本農村医学会、並びに平成30年3月開催の第35回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会など、各種学会で発表してきました。

以上、本会の活動は医療関係者はもとより行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてきました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでいきたいと思っておりますので、会員各位の絶大なるご協力をお願いいたします。

II. 主な事業項目の概要

1. 研究調査活動

(1). 農業災害事故調査

目 的

昭和45年から実施している、農業機械災害事故および農業機械以外の農作業災害事故調査について継続して実施した。

調査方法

例年通り、県内の関連する医療機関約850カ所に対して臨床例の有無について照会し農作業事故の臨床例の収集を行った。なお、40年以上続いた全共連富山県本部の生命・傷害共済証書より事案の抽出は、平成24年度以降今年度も事案収集がでず、過去の連続調査の質とここ5年間では例数や内容が大きく変わっている。

調査結果と考察

医療機関より収集された臨床例は農機17例、農機外26例、計43例であった。今回、全共連の本部では「個人情報保護法」との関係で検索ができなかったが、国内唯一の農作業事故の実態調査であり、今後、日本の農作業事故防止のための指針とするためにも、関係機関の理解と、新たな事故調査の体制が必要と考えられた。

なお、この点について全共連本部への情報提供の可能性について、「組合員のいのちを守る」観点から、なんらかの形での情報提供について、検討中であり、すでに傷害共済、自動車共済での農作業事故事例の過去3年分、約15,000件について抽出、分析を行っており、今後各都道府県分についても報告可能であれば、今後の報告に生かすことが出来る可能性がある。

(2). 各種農作業のチェックリストの作成

目 的

前年度に引き続き、農作業事故を予防するため、稲作、畑作、酪農などにおけるリスクアセスメントのためのチェックリストを事故の実態や各地域の実態に基づき作成することとした。

方法

これまでの事故調査に基づき、現場に合った作業毎にチェックリストを作成し、各種・営農集団（稲作・

畑作・酪農)において実際に使用しての効果等について、聞き取り調査などを行った。

特に、各週会合での農作業安全講習において、実際の農作業現場でのチェックリストの確認や問題点の抽出方法での意見交換を行った。

調査結果の分析と発表

県内各地の営農組合や実態に添うチェックリストであるか、実際の作業での検証を行い、チェックリストについて確認を行った。特に、問題把握の手法について、各自が日頃の作業での問題点を出し合い、お互いで課題と対策を見いだす研修は、多くの参加者から、実習方法として大変有効との意見が寄せられた。

(3) 農業機械の騒音に関する調査研究

目的

昨年度に引き続き、農業機械の騒音について、作業時の騒音測定を行い、農作業者の騒音性難聴の発生を防ぐことを目的とする。

調査方法

各種農業機械の作業時の騒音について、特に騒音性難聴を惹起するとされる4000Hzの騒音について1/3オクターブ分析ができる騒音計を用いて測定した。

調査結果の分析と発表

農業機械の騒音は、機械そのものの騒音について無響音室などにおいて作業時以外での測定は多くなされているが、実際の作業時の騒音測定はほとんど行われていない。

特に、小型のエンジンを持つ、前年に引き続き刈払機や動力散布機等の騒音を測定した。前年報告と同様、小型エンジンを用いている農機の4000HZ前後の騒音性難聴を惹起する周波数帯の騒音レベルが高く、防護対策の徹底が必要と考えられた。

(4) 高齢者の「認知－判断－操作」の機能評価

目的

高齢者が農業機械を操作する際に、危険を「認知」して、どのような操作をすべきか「判断」して、実際に判断した通りに「操作」することが必要である。この「認知－判断－操作」の一連の流れが滞ると、事故につながりかねない。この機能評価に前年に開発した「モグラ叩き」ソフトを用い、各年齢毎の標準値を求め、実際の作業者がどの程度の水準出来るかの指標となるよう、標準化のための調査を行った。

なお、昨年度同様の調査を行っているが、例数をさらに増やし、年齢標準線の一般化をめざした。

方法

平成29年度において、「モグラ叩きゲーム」を点数化するソフトを確定した。

+1点、+2点、-1点、-2点の4種類のモグラのキャラクターが次々と出現し、時間は1分間である。各種会合参加者に「モグラ叩き」を点数化各年代別に一定の人数の被験者にて、「モグラ叩き」を実施し、併せて農作業時の事故経験、ヒヤリハットなどをアンケート調査し、モグラ叩きの点数と、事故との関連について検討した。調査は3回テストを行い、その最高点をその人の点数とした。

調査結果の分析と発表

約550人に実施したが、3回行った者は約400人であり男女約同数であった。

年齢とともに平均的に得点は低下しており、「認知⇒判断⇒操作」機能が衰えていると考えられた。特に20歳代は約100点であるが、年齢とともに低下するが60歳代でも約80点台であるが、70歳代約70点、75歳代約50点と一気に低下する。

また、感覚機能、身体の痛み、体の動き、脳機能などについて低下しているものほど、得点が低い傾向にあった。

また、自動車運転やトラクター運転において危険を感じているものが点数が低い傾向にあった。

以上のことから、このモグラ叩きを用いて、高齢者のトラクター等の適否や注意喚起のツールとして採用出来る可能性が考えられた。

今後、さらに例数を増やし、基準値の作成、判定のコメントなどを作成し、実際の現場で利用できるツールとしたいと考える。

(5) 研究助成

酒井理事の富山県農村における家族の変容及び『いえ』の継承に関する研究は、水稻を基幹とする富山県の農業は、機械化による省力化で兼業化を可能にしているが、農業の高齢化や跡継ぎの問題は深刻で大変意義のある研究で、これに対して助成金を50万円とした。研究期間はH28, H29年度の2年間で各年度25万円とした。

年度ごとに、報告を受ける。H29年度の報告は、会誌第36巻に掲載した。

2. 各種研究会参加

(1) 第66回日本農村医学会

- ・開催日 平成29年10月5日(木)～6日(金)
- ・開催場所 沖縄コンベンションセンター
- ・会員発表 4題

① 高校生の骨密度と生活習慣の関係

厚生連高岡健康管理センター 沢井 美土里他

② 各種農業機械の騒音と周波数分析の結果について

富山県農村医学研究会 吉田 稔他

③ 花粉症疾患における魚油と発症の関係

富山県農村医学研究所 寺西 秀豊

④ 主要農業機械の事故様態と重症度の関係 第2報

—農作業事故の対面調査から—

富山県農村医学研究会 大浦 栄次他

(2) 第35回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

- ・開催日 平成30年3月3日(土)
- ・開催場所 厚生連高岡病院地域医療研修センター(1)
- ・会員発表 8題

① 高校生の生活習慣と骨密度の関係

厚生連高岡健康管理センター 荒田 美土里他

② 平成29年度満足度調査の結果報告

厚生連滑川健康管理センター 新田 一葉他

③ 大豆製品と骨質の関連について

富山県衛生研究所環境保健部 石橋 悠太

④ 干し柿DVDブックの制作

—仮題「干し柿文化と生産技術の可視化」—

元富山県立大学短期大学部 林 節男

⑤ 富山県の花粉調査2017

富山県農村医学研究会 吉田 稔他

⑥ 無花粉(雄性不稔)オーチャドグラスの紹介

富山県農村医学研究所 寺西 秀豊

⑦ 「モグラたたき」テストの活用事例について

富山市角川介護予防センター 沖 直哉他

⑧ 「モグラたたき」により「認知⇒判断⇒操作」機能の評価

富山県農村医学研究会 大浦 栄次他

Ⅲ. 主な行事（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

年.月.日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
29.4.27	役員会	厚生連本所応接室
29.6.8	第35巻会誌発刊	
29.6.10	第4回総会	厚生連高岡病院地域医療研修センター1
29.7.3	役員会	厚生連本所応接室
29.10.4 ～6	第66回日本農村医学会総会	沖縄県宜野湾市（会員発表4題）
29.10.20	富山県農業災害事故実態調査（前期）	県内医療機関
29.12.21	役員会	厚生連本所応接室
30.2.22	富山県農業災害事故実態調査（後期）	県内医療機関
30.3.3	第35回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会	厚生連高岡病院地域医療研修センター1（会員発表8題）

Ⅳ. 総会

第4回総会

	総会日現在会員数	308名
出席会員数	実際に出席した会員数	35名
	委任状数	212名
	計	247名
重要なる議事及び議決事項 第1号議案 平成28年度事業報告・収支決算書承認について 原案承認 第2号議案 平成29年度事業計画案・収支予算書案承認について 原案承認 ※議事終了後、講演会を開催 特別講演 講師 JA長野厚生連 佐久総合病院 名誉院長 夏川周介氏 「地域包括ケアの実践－佐久病院の軌跡－」		

財 産 目 録
(平成30年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	394,365円	
計	394,365円	

監 事 の 意 見 書

平成30年5月17日に会長理事から提出された第1年度の事業報告書、財産目録、収支決算書の各事項について監査致しました。その結果、以上の内容は適正なものと認めます。

平成30年 5月17日

富 山 県 農 村 医 学 研 究 会

監事 高 木 茂



監事 小 栗 光



平成 29 年度 収支決算書
(自平成 29 年 04 月 1 日～平成 30 年 03 月 31 日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 引 額	備 考
会 費 収 入	306,000	314,000	8,000	
会 費	306,000	314,000	8,000	306 人×1,000 円
特別負担金	1,470,000	1,470,000	0	
特 別 負 担 金	870,000	870,000	0	870,000 円 (厚生連)
調査研究協力費	600,000	600,000	0	厚生連より繰入
雑 収 入	100	9	-91	
雑 収 入	100	9	-91	利息など
前期繰越金	1,169,995	1,169,995	0	
収 入 計	2,946,095	2,954,004	7,909	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 引 額	備 考
会 議 費	250,000	261,385	11,385	
総 会 費	150,000	202,913	52,913	資料、講師料他
役 員 会 費	100,000	58,472	-41,528	役員会 3 回
事 業 費	2,205,000	1,665,495	-539,505	
研 究 調 査 費	1,000,000	869,283	-130,717	各種調査研究
専 門 委 員 会 費	25,000	0	-25,000	〃 打合せなど
研 究 集 会 費	100,000	59,090	-40,910	発表集会抄録、会場費ほか
会 誌 発 行 費	700,000	441,720	-258,280	
編 集 委 員 会 費	20,000	0	-20,000	
通 信 費	180,000	159,937	-20,063	電話代他
消 耗 品 費	130,000	135,465	5,465	コピー代他
備 品 ・ 什 器	50,000	0	-50,000	
旅 費 交 通 費	300,000	328,760	28,760	
旅 費 交 通 費	300,000	328,760	28,760	日本農村医学会・参加費など
雑 費	140,000	303,999	163,999	
雑 費	140,000	303,999	163,999	日本農村医学会役員・評議員特別負担金など
予 備 費	51,095	0	-51,095	
予 備 費	51,095	0	-51,095	
支 出 計	2,946,095	2,559,639	-386,456	
次 期 繰 越 金	0	394,365	394,365	

平成30年度事業計画（案）

I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

特に、農薬中毒や農業災害、職業性疾患等農業医学的分野及び、農村環境や農村生活に起因する農村医学的分野について調査研究を行う。さらに、命を育む農業を営む事の精神的、社会的、文化的意義を明らかにし、心豊かな農村づくりに寄与する。

II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
 - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
 - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する 調査研究
 - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
 - ・農薬中毒の実態調査
 - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
 - ・農薬の生体残留に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
 - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の生活習慣病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
 - ・農村における高齢者に関する調査研究
 - ・社会変動による農業従事者の生活・健康に及ぼす影響についての調査研究
 - ・都市近郊農村における社会医学的研究
 - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
 - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染およびその変化と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

III. 主な事業計画

1. 主な調査研究

- (1) 農業災害に関する調査研究
 - ①富山県における農業災害事故調査
 - ②農業災害事故のケーススタディ
 - ③高齢者の農作業安全に関わる調査研究

- (2) 農薬中毒に関する調査研究
 - ①農薬散布者の健康調査
 - ②有機リン剤の体内残留に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
 - ①農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
 - ①各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究
- (5) 農山村における騒音と聴力障害などに関する調査研究
 - ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
 - ①農村における熱中症など温暖化影響に関する調査研究
 - ②農村における自然エネルギーの実態と利用の将来的可能性に関する調査
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
 - ①食生活と健康に関する調査研究
 - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
 - ③農村におけるメタボリックシンドロームの実態とその対策
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
 - ①農村における健康管理運動に関する調査研究
 - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
 - ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
 - ②農村高齢者の農作業と骨密度の関連に関する調査研究
 - ③農村における介護および認知症等に関する調査研究
- (10) その他、農山漁村における各種健康・保健調査の実施

2. 各種研究集会参加・交流並びに開催

- (1) 第36回富山県農村医学研究及び健康管理福祉活動発表集会の開催
平成31年3月2日(土)、厚生連高岡病院地域研修センター I
- (2) 第67回日本農村医学会お
開催日時：平成30年10月10日、12日
開催場所：東京都江東区有明

3. 会誌等の印刷物の発刊

- ①会誌の発刊
- ②農村医学に関する啓蒙資料の作成
- ③その他

4. その他目的達成に必要な事業

平成30年度収支予算書

(自平成30年04月1日～平成31年03月31日)

収入の部

(単位：円)

項目	前年度	予算額	備考
会費収入	306,000	306,000	
会費	306,000	306,000	306人×1,000円
特別負担金	1,470,000	1,470,000	
特別負担金	870,000	870,000	870,000円(厚生連)
調査研究協力費	600,000	600,000	厚生連より繰入
雑収入	100	100	
雑収入	100	100	利息など
前期繰越金	1,169,995	394,365	
収入計	2,946,095	2,170,465	

支出の部

(単位：円)

項目	前年度	予算額	備考
会議費	250,000	250,000	
総会費	150,000	150,000	資料、会場費、講師料他
役員会費	100,000	100,000	役員会3回
事業費	2,205,000	1,710,000	
研究調査費	1,000,000	1,000,000	各種調査研究
専門委員会費	25,000		〃 打合せなど
研究集会費	100,000	100,000	発表集会抄録、会場費ほか
会誌発行費	700,000	500,000	
編集委員会費	20,000		
通信費	180,000	80,000	電話代他
消耗品費	130,000	30,000	コピー代他
備品・什器	50,000		
旅費交通費	300,000	200,000	
旅費交通費	300,000	200,000	日本農村医学会・参加費
雑費	140,000	10,000	
雑費	140,000	10,000	
予備費	51,095	465	
予備費	51,095	465	
支出計	2,946,095	2,170,465	
次期繰越金	0	0	

役員名簿

H30.6.2

理 事	役 職
鏡 森 定 信	富山産業保健総合支援センター所長
川 口 祐 男	県農業技術課 課長
安 藤 満	元富山国際大学 教授
寺 西 秀 豊	元富山大学医学部公衆衛生学教室 准教授
酒 井 富 夫	富山大学研究推進機構極東地域研究センター 教授
中 崎 美 峰 子	富山県衛生研究所環境保健部 副主幹研究員
亀 谷 富 夫	厚生連高岡健康管理センター所長
北 川 清 秀	厚生連高岡病院 院長
南 里 泰 弘	厚生連滑川病院 院長
山 本 康 雄	富山県農協中央会農業対策部 部長
金 杉 康 博	全農富山県本部生活燃料部 部長
西 川 藤 樹	富山県厚生連 代表理事理事長
大 浦 栄 次	富山県厚生連 健康福祉アドバイザー
谷 井 悦 子	富山県農協女性組織協議会 会長
大 久 保 光 太	富山県農協青年組織協議会 会長
中 尾 英 里 子	富山県高岡地区生活指導員協議会 会長
監 事	役 職
小 栗 光	厚生連滑川病院 副院長
高 木 茂	富山県厚生連 常務理事

事務局長

吉 田 稔 富山県厚生連健康福祉課付審査役

顧 問	役 職
石 田 礼 二	富山市民病院名誉院長
加 須 屋 実	富山大学名誉教授
寺 中 正 昭	寺中クリニック 院長
菊 池 誠	金沢西病院 理事長
熊 谷 武 夫	老健施設みしま野苑一穂 施設長
小 川 忠 邦	元老健施設みしま野苑一穂 施設長

理事

就任 富山県農林水産部農業技術課 課長 川口 祐男
 富山県農協青年組織協議会 会長 大久保 光太
 富山県高岡地区生活指導員協議会 会長 中尾 英里子
 富山県厚生連代表理事 理事長 西川 藤樹
 退任 北陸メンタル研究所 代表取締役 草野 亮
 富山県農協青年組織協議会 会長 大平 真也
 富山県高岡地区生活指導員協議会 会長 水野 小夜子

監事

就任 富山県厚生連 常務理事 高木 茂
 退任 富山県厚生連 常務理事 西川 藤樹